

# 第37回 東北ストーマ リハビリテーション研究会

プログラム・抄録集

会期

2024年  
4月13日(土)

会場

フォレスト仙台

当番世話人

上野 達也

(みやぎ県南中核病院 外科)





# ご 挨拶

第 37 回東北ストーマリハビリテーション研究会 当番世話人  
みやぎ県南中核病院 副院長、外科  
上野 達也

この度、第 37 回東北ストーマリハビリテーション研究会を 2024 年 4 月 13 日（土）に仙台市で開催させていただきます。このような伝統ある会を担わせていただく貴重な機会をお与えいただき、代表世話人である東北大学大学院消化器外科分野 海野倫明教授に感謝申し上げます。

今回は、一般演題、特別講演、パネルディスカッション、のプログラム構成としました。一般演題では皆様の経験、創意工夫、など日常診療で困った症例、うまく行った症例などを紹介していただきたいと思います。

特別講演は、ひかりクリニックの堀義生先生にお願いしました。堀先生は、小生の大親友であり、スキー部の一年後輩でした。卒業後は東北大学の旧第二外科に入局され、再生医療の研究などに従事されました。その後開業され、訪問診療などをおこなわれていました。2 年ほど前に病気のため人工肛門を造設することとなり、外科医でありながら自分のストーマケアを行う、という貴重な経験をされています。今回の特別講演では外科医であり、訪問診療医、オストメイト、という 3 つの立場での話を聞けるものと楽しみにしています。

パネルディスカッションですが、近年超高齢者にストーマを造設する機会が増えています。本人にストーマケアを覚えてもらおうとしても、習得に時間がかかる、家族でないとケアが覚えられない、という問題が生じています。一方、地域の中核的な病院では、患者さんの集中、看護師をはじめとするスタッフ不足、在院日数の低下および病床稼働率のアップという経営的な要求、などなどの問題を抱えつつ日常診療を行っています。ストーマケアを、地域医療構想で提示されている高度急性期、急性期、回復期、慢性期のそれぞれの病院と在宅診療で連携しながらサポートしていく必要があると思っています。東北地方のそれぞれの地域で行われているこのような連携、工夫、などについて、ディスカッションしてもらいたいと思います。

本来であれば、当院のある大河原町は「一目千本桜」という桜の名所があり（昨年の弘前市に負けないほどの）、大河原町での開催を検討しましたが、交通の便など考慮して仙台での開催としました。研究会終了後は仙台で美味しい食事、観光などしていただき、これからの日常診療への英気を養っていただければと思います。

末筆ながら、ご参加いただきました皆様のご健勝、益々のご発展をお祈りし、ご挨拶に代えさせていただきます。

# 第 37 回東北ストーリーマリアビリテーション研究会

日時 2024 年 4 月 13 日 (土) 13:00 ~ 17:00

会場 フォレスト仙台 2F 〒981-0933 仙台市青葉区柏木 1-2-45 TEL: 022-271-9340



## ■仙台駅からフォレスト仙台までの交通機関

仙台市地下鉄南北線利用 (所要時間 5 分)

【乗車駅】 地下鉄南北線「仙台駅」(泉中央行)

【降車駅】 地下鉄南北線「北四番丁駅」(「北 2」出口より徒歩約 7 分)

JR 仙山線利用 (所要時間 6 分)

【乗車駅】 JR 仙山線「仙台駅」(山形方面行)

【降車駅】 JR 仙山線「北仙台駅」(出口より徒歩約 10 分)

バス利用 (所要時間 10 分～) ※バス路線、経由地によって変化します。

【乗車停留所】「仙台駅前」

⇒仙台市営バスのりば 9 番・13 番・14 番・17 番・19 番・27 番 (西口バスプール)

⇒宮城交通バスのりば 4 番 (西口バスプール)

【降車停留所】「堤通雨宮町」(徒歩約 2 分)

タクシー利用 (仙台駅より所要時間約 10 分)

## ■自家用車

※有料立体及び平面駐車場(30 分毎 100 円～)がございますが、できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

### 【参加登録について】

現地受付窓口にて記名・参加費のお支払いを行ってください。

参加費：1,000 円 ※現金のみ

### 【ご講演のご案内】

一般演題：発表 6 分・質疑 2 分

パネルディスカッション：発表 6 分・総合討論 30 分

#### ＜ご登壇方法について＞

##### ●座長の皆様へ

ご担当セッション開始の 10 分前までに会場内前方の次座長席にご着席ください。

##### ●演者の皆様へ

- (1) 時間の進行は、舞台上のデジタル計時回線にてお知らせいたします。発表時間終了 1 分前に黄ランプ、発表時間終了後に赤ランプが点灯します。発表時間、質疑応答時間を厳守し、円滑な運営にご協力をお願いいたします。
- (2) 発表方法は PC による 1 面映写です。発表予定時刻の 30 分前までに USB メモリ、もしくはご自身の PC を PC 受付（2 階ロビー）にお持ちいただき、動作確認・試写を済ませください。
- (3) 発表の 10 分前までに会場内前方の次演者席へご着席ください。
- (4) 発表データは Microsoft PowerPoint2016、2019 バージョンで作成をお願いします。Macintosh をご利用の方は、ご自身の PC をご持参ください。
- (5) スライドサイズは 16:9 を推奨いたしますが、4:3 でも投影可能です。
- (6) 円滑な進行のため、発表者ツールのご使用はご遠慮ください。
- (7) PC 持込の場合
  - ・バックアップとして必ずメディアもご持参ください。
  - ・PC 受付の液晶モニターに接続し、映像の出力チェックを行ってください。
  - ・プロジェクターとの接続ケーブルは HDMI です。PC によっては専用の映像出力アダプタが必要になりますので、必ずご持参ください。
  - ・スクリーンセーバー、省電力設定は事前に解除してください。
  - ・電源アダプタを必ずご持参ください。内臓バッテリー駆動の場合、ご発表中に映像が切れる恐れがあります。
  - ・発表は舞台のマウスを使用して操作をお願いいたします（遠隔操作になります）。舞台上のモニターとスクリーンは同じものが表示されます（発表者ツールは使用できません）。なお、PC 本体は舞台上に設置することは出来ません。
  - ・発表の 20 分前には会場前方のオペレーター席へお持ちください。講演終了後は出来るだけ速やかに PC のお引き取りをお願いいたします。
- (8) 発表終了後の発表データは事務局が責任をもって消去いたします。

### 【質疑応答について】

- (1) 質問者は、会場内の質問用マイクの前でお待ちください。
- (2) 質問者は、座長の指示に従ってください。

#### ＜運営事務局＞

ご不明な点があれば運営事務局までご連絡ください。

第 37 回東北ストーマリハビリテーション研究会

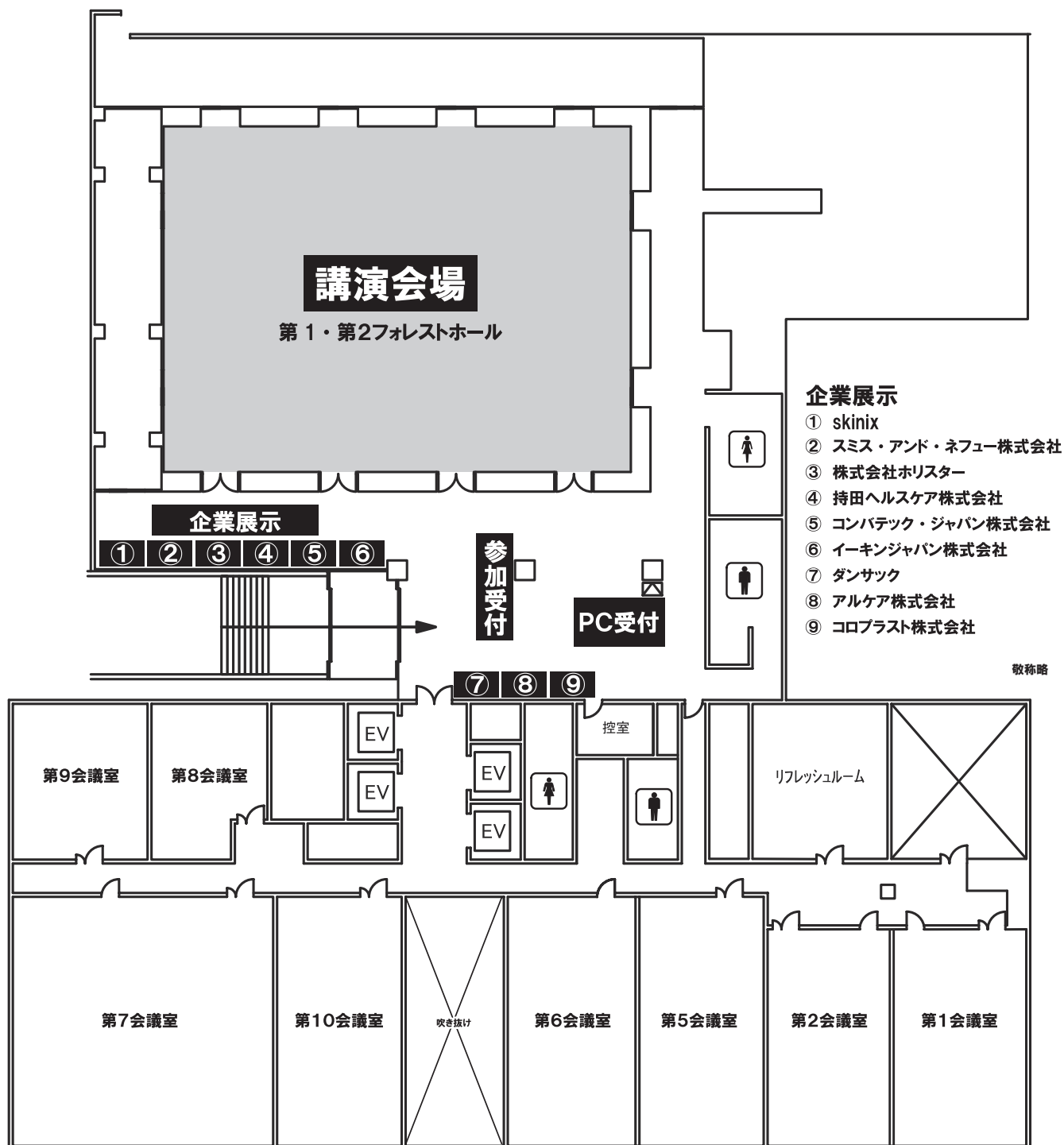
運営事務局 株式会社東北共立

メールアドレス：stoma37@tohoku-kyoritz.co.jp

電 話：022-246-2591

FAX：022-399-7749

# 会場案内図



フォレスト仙台 2階フロア

# 第 37 回東北ストーマリハビリテーション研究会 プログラム

## 13 : 00 開会の挨拶

東北ストーマリハビリテーション研究会 代表世話人  
東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座消化器外科分野 教授 海野 倫明

## 13 : 05 ～ 14 : 17 一般演題

### 一般演題 1 (13 : 05 ～ 13 : 37)

座長：鈴木 秀幸（東北大学病院）

横澤 真姫子（みやぎ県南中核病院 看護部）

O-1 重症潰瘍性大腸炎術後、壊疽性膿皮症にてストーマケアに難渋した高齢患者への看護

東北大学病院 東 8 階病棟 高橋 思央里 ほか

O-2 回腸人工肛門閉鎖術における局所陰圧閉鎖療法の有用性の検討

市立秋田総合病院 消化器外科 茂木 はるか ほか

O-3 回腸導管の周囲皮膚に発生した PEH に対するケアの実際

東北大学病院 看護部 佐竹 ひとみ ほか

O-4 装具装着困難な回腸ストーマ周囲皮膚炎に対し、亜鉛華単軟膏で皮膚障害が改善した 2 症例

いわき市医療センター 高萩 由美子 ほか

### 一般演題 2 (13 : 37 ～ 14 : 17)

座長：神山 篤史（いわき市医療センター）

佐竹 ひとみ（東北大学病院 看護部）

O-5 高齢患者がストーマの自己管理を行い自宅療養が実現できた一例

みやぎ県南中核病院 3 階西病棟 佐藤 美菜子 ほか

O-6 インスリンリポハイパートロフィーがある患者のストーマサイトマーキングを経験して

十和田市立中央病院 木野 こず恵 ほか

O-7 50%ブドウ糖液を用いたストーマ脱出の還納手技～ナメクジ法（slug method）～（続報）

東北大学大学院 消化器外科学 渡辺 和宏 ほか

O-8 出血を繰り返す回腸導管静脈瘤に対して静脈瘤塞栓術により止血を得た一例

市立秋田総合病院 消化器外科 河村 七彩 ほか

O-9 消化管ストーマが造設された重症心身障害者の 2 例

仙台エコー医療療育センター診療部医科 天江 新太郎 ほか

## 14 : 17 ～ 14 : 40 休憩

## 14：40～15：30 特別講演

座長：上野 達也（みやぎ県南中核病院 外科）

イレオストミーよもやま話 ～医師として、オストメイトとして～

ひかりクリニック 堀 義生

## 15：30～15：40 休憩

## 15：40～16：50 パネルディスカッション

座長：高橋 賢一（東北労災病院大腸肛門外科部長、大腸肛門病センター長）

庄司 沙織（みやぎ県南中核病院 患者サポートセンター）

PD-1 ストーマ合併症を減らす工夫 急性期病院の医師の立場から

～ストーマの縮小を見据えて～

市立秋田総合病院 消化器外科 陳 開 ほか

PD-2 高齢・超高齢ストーマ造設患者の早期退院に向けたチーム医療

福島県立医科大学会津医療センター 大腸肛門外科、患者支援センター

遠藤 俊吾 ほか

PD-3 地域基幹病院におけるストーマ保有者が抱える問題点から今後のサポート体制を考える

いわき市医療センター 外科 神山 篤史 ほか

PD-4 WOC 訪問看護師として感じる在宅ストーマ保有者の現状と課題

～在宅 WOCN としての今後の対応も踏まえて～

医療法人よこやまクリニック 訪問看護部 佐藤 裕也

PD-5 在宅における高齢ストーマ保有者の継続支援の現状とあらたな展開

一宮城県におけるストーマ保有者の支援体制の構築—

在宅 WOC センター、仙台エコー医療療育センター 看護療育部、

東北ストーマリハビリテーション研究会 熊谷 英子

PD-6 急性期病院から退院するストーマ患者への支援

みやぎ県南中核病院 患者サポートセンター 庄司 沙織 ほか

PD-7 高齢者のストーマケア支援と地域との連携

青森県立中央病院 看護部 斉藤 朱美 ほか

## 16：50 閉会の挨拶

第 37 回東北ストーマリハビリテーション研究会 当番世話人

みやぎ県南中核病院 外科 上野 達也